

開催報告

平成 23 年度 青少年問題を考える地域懇話会

■ 深川市（平成 24 年 2 月 20 日（月）プラザホテル板倉）

■ 室蘭市（平成 24 年 3 月 3 日（土）室蘭市青少年研修センター）

青少年問題について、有識者と地域の活動指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を深川市、室蘭市の2箇所で、それぞれの青少年育成市町村民会議等と共催して開催しました。

両会場では、青少年の健全育成のための課題や解決方策について、地域の活動指導者からの発表を基に有識者の助言や一般参加者からの意見も交え、活発な意見交換が行われました。

【深川市】 テーマ「地域の子どもたちを守り育てるために」

- 共 催 深川市青少年健全育成連絡協議会、深川市青少年育成センター、北空知広域補導連絡協議会
- 提言者 地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所主査 松村 博文
- 発表者 深川市青少年健全育成連絡協議会顧問 増永 さゆり
ふかがわ「すきやき隊」隊長 中井 秀夫
深川市教育委員会少年相談員 大久保 春夫
- コーディネーター 空知教育局社会教育指導班主査 芳村 桐子

（敬称略）



○ 概 要

3名の発表者からは、①子どもまつり、イルムの里づくり運動（通学合宿など）、②挨拶・声かけ、登下校時の見守り活動、③子どもの居場所づくり「生き生きスポット」などについて発表がありました。特に、子ども会活動の中でリーダーとして参加した子ども達が、その後、中・高校生になっても行事に係わるなど、子ども達の意欲・関心や自主性が育っている様子が紹介され、後継者育成の面からも大いに参考となる事例が話されました。課題として、①少子化や習い事等の多様化による単独の事業運営の難しさ、②すきやき隊登録が400名を越えているが高齢化しているなどが取り上げられました。

これに対し提言者からは、地域の育成運動を地域住民を巻き込み持続可能なものにするためには、①住民協力や参画による課題や成果を共有していくこと、②安全安心に係わる資料をデータ化し、可視化することによって地域住民の意欲や連帯感を醸成することが重要であるとの提言がありました。

最後に、参加者をグループに分け、「こんな子どもに育てたい」「自分が描くこれからできる活動」等の課題に基づき活発に意見を交換しました。

【室蘭市】 テーマ「地域の子は、地域で守り育てるために」

- 共 催 室蘭市青少年健全育成推進協議会
- 提言者 北翔大学副学長、同大学院生涯学習学研究科教授・研究科長 山谷 敬三郎
- 発表者 室蘭市青少年健全育成推進協議会母親クラブ部会長 余語 奈穂子
室蘭市教育委員会青少年課長 高木 康
- コーディネーター 胆振教育局社会教育指導班主査 澤田 慎也

（敬称略）



○ 概 要

2名の発表者からは、①児童館での活動状況、子ども安全安心パトロールなど各種行事への参加状況、②室蘭市として行政の取組状況などについて発表があり、特に室蘭市が独自に実施している「スクール児童館」（学校の余裕教室等を活用し、放課後に保護者が留守家庭となる児童の居場所や自由に来館する子どもたちへの遊び場所として提供）について、紹介がありました。課題としては、①子ども会活動の地域格差、②子どもたちの行事参加への減少、③育成者の不足、④学校統合による通学地域の拡大により、バス通学の児童がスクール児童館で遊ぶことができなくなっていること、⑤携帯電話・インターネットによる被害、不審者の出没、隠れた非行の進行などが取り上げられました。

これに対し提言者からは、全国で発生している子どもが被害を受けた事件の大半は、登下校で発生しており、室蘭市の取組は効果的であること、また、児童の被害の防止のためには、地域と家庭のつながりができることが重要であり、人のネットワークをきちんとすることが事件・事故防止につながるなどの提言がありました。

また、今後の対応としては、①各地区の活動状況を連絡会議等で情報や意見交換の充実を図る、②広報紙等を活用し、活動や行事内容を地域へ発信していく、③地域住民と連携した子どもの安全・安心を守る体制づくりなどについて、参加者の中で熱心な意見交換が行われました。